

## はしがき

本報告書は、平成 23 年 9 月に実施された国際会議「日韓ダイアログ～メディアの役割を考える～第 1 回会合」（於：東京（国際文化会館））の議事録および要旨・各種資料を集成したものです。

国交正常化からはや半世紀近くが過ぎ、日本と韓国との関係は、両国が個々の相違点と全体としてのパートナーシップの明確な峻別を語るができるまでに深化しています。経済的関係のつながりはもとより、文化のシームレスな相互伝播がその根底に大きく作用していることは、とりわけ日々の生活の中でも実感されることでしょう。このように、いわば「皮膚感覚」において、互いが互いにとって当たり前の存在となった日韓両国は、認識の差異を確認して事たれりとする「対話のための対話」の段階を超え、両国関係と、それにとどまらない種々の課題を討議すべき段階に入っており、特に両国の世論形成に大きな影響を及ぼすメディアは、その能動的アクターとして、引き続き重要な役割を担っていくものと考えられます。

他方で、インターネットの普及が既存メディアのありようを大きく変化させ、のみならずソーシャル・ネットワークの登場を経て、ある意味で既存メディア自体を跳躍した新たな情報流通の形が登場し、それが実際の政治的事象の原動力となる時代が到来する中で、はたして「メディア」とはいかなるもので、何をなすのか、そして何をなすべきなのかという「足下の点検」もまた、メディアに対し厳しく求められていることも今日の現実といえましょう。

このような状況認識と問題意識のもと、世界規模の政治的変動が予想される 2012 年を迎えるにあたっての展望にかかわる複数のトピックを、日韓関係との相関関係を視野に入れて討議し、また同時に、それらの情報の担い手であるメディアの役割をも再点検する場を設けるべく、今回の会議は着想されました。そしてそのような趣旨と目的に対し、幸いにして株式会社ロッテより全面的なご賛同が得られ、日本外務省および大韓民国外交通商部の後援のもと、弊所と韓国国際交流財団が実行役を務める形で、今次会議が開催の運びとなった次第です。

ともすれば日韓関係への関心が、個々の事象や特定の分野に集中しがちになる風潮の中で、安定的で長いタイムスパンをもって、折々の日韓関係の諸相と国際情勢をとらえるメディアの視点を記す「定点観測」の場を提供し、あわせてその成果を世に問い、広範な検証を受けることが、私どもの一致した、そして最終的なねらいとなります。本報告書がその目的に資するツールとして機能しましたならば、望外の喜びであります。

なお、今次会議は参加者の率直な意見交換を念頭に置いて開催されたものであり、本報告書に収録された発表・討論の内容は、すべて発言者の個人的見解に基づくものです。

末筆ながら、ご多忙のなか今次会議のためにご参集くださった参加者のみなさま、会議の円滑な運営と報告書の作成にご尽力いただいた関係各位、そしてこれらすべての過程において多大なご支援を賜りました株式会社ロッテに厚く御礼申し上げます。

平成 24 年 3 月

財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上 義二



## 目次

はしがき.....	i
目次.....	iii
プログラム.....	1
参加者リスト.....	3
<b>発表およびディスカッション 要旨.....</b>	<b>5</b>
▶ 開会挨拶.....	6
▶ セッション 1: メディアより見た東アジアの浮上.....	6
▶ 基調講演: 明るい韓日関係の明日のために.....	13
▶ セッション 2: 日韓経済の現住所 — FTA を中心とする経済関係.....	15
▶ セッション 3: 北朝鮮問題への新たな接近視角.....	23
▶ 基調講演: 日韓関係の成熟化のために.....	30
▶ セッション 4: 21 世紀の新たな日韓関係構築のためのメディアの役割.....	31
▶ 閉会挨拶.....	38
<b>発表資料.....</b>	<b>39</b>
<b>議事録.....</b>	<b>55</b>
▶ 開会挨拶.....	56
▶ セッション 1: メディアより見た東アジアの浮上.....	57
▶ 基調講演: 明るい韓日関係の明日のために.....	77
▶ セッション 2: 日韓経済の現住所 — FTA を中心とする経済関係.....	81
▶ セッション 3: 北朝鮮問題への新たな接近視角.....	105
▶ 基調講演: 日韓関係の成熟化のために.....	128
▶ セッション 4: 21 世紀の新たな日韓関係構築のためのメディアの役割.....	132
▶ 閉会挨拶.....	155